

大阪府柔道整復師会医療スポーツ専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和 5年 12月 20日(水) 実施】

資料第2号

令和5年度自己点検自己評価(令和5年3月31日～令和5年12月1日)による

評価委員氏名【川口委員、藤井委員、水野委員、藤森委員】

項目	点検項目	自己点検	重点目標	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
				優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
1 教育理念・目的・育人人材像	1-3 学校の将来構想を抱いているか	①柔道整復師として「医療人としての質を確保(quality assurance)」することは非常に重要である。特に柔道整復師業界団体が日本で唯一の4年制教育で運営する学校は、高いモラルと倫理観を兼ね備えた人材育成を行う使命がある。運営母体の協力を得て柔道整復の現場で学び、学生時代から「医療倫理・職業倫理」「柔道整復療養費制度」などを学ぶことで医療人としての質を確保(quality assurance)を目指している。 ②医療費を取り扱う柔道整復師として、医療人としての質を確保(quality assurance)するためには、EBMを実践し、エビデンスレベルを評価した上で科学的な裏づけをもってインフォームド・コンセント(informed consent)が行えることや、患者中心の医療(Patient-centered care)提供を現場で実践できることが重要である。正しく論文を読み解釈する力、仮説を立てて検証を行える力、根拠に基づく臨床推論が行える柔道整復師の育成を行い、医療人としての質を確保(quality assurance)を目指している。 ③柔道整復師の職域を拡大するため、柔道整復師の施術現場以外にもスポーツ現場での運動指導や介護分野での機能訓練指導、ジュニアからシニアまでの健康づくりをサポートできるような実践力のある柔道整復師の育成を目指し柔道整復師の活躍の幅を広げるような指導を目指している。 ④上記に掲げる①②③の教育を実践できれば、大学教育、既存の3年制教育、どこにも負けない日本ナンバーワンの柔道整復師の学校として人材を受け入れることが可能であると考えており、将来として柔道整復師教育の東大と言われる学校を目指している。	①運営母体である(公社)大阪府柔道整復師会と連携し、柔道整復師が関わる現場でより多くの実践が求められるような環境をこれからも模索し環境整備を整える。 ②(公社)大阪府柔道整復師会と連携し、社会保障制度、柔道整復業務における療養費、医療従事者としての職業倫理を今後も継続して教育指導してもらえるよう取り組む。 ③柔道整復師として多くの論文を出し、PubMedなどに掲載される柔道整復師が増えれば、海外での柔道整復師の認知度も上がり柔道整復師の国家資格者であれば、海外の医療機関で勤務することも可能となる。現在は、ドイツなどで整形外科で勤務するには、その国の理学療法士免許を取得し直さなければならない。JUDO-therapyがWHOに掲載されていても、Taro Kariyara(2012)の報告の通り、スイスやフランスの人々にさえも全く認識されていないことが事実である。PubMedなどに柔道整復師の論文がない限り、何をしている職業かも認識されない。そこで、柔道整復師としてEBMを実践するために、論文知識と仮説検定力、統計解析に強い柔道整復師を育成し、将来海外でも活躍できる柔道整復師が輩出できるよう取り組む。 ④本校卒業生が様々な働き方を選択できるよう、在学中における複合資格の取得、さらには自分の行動を調整し、主体的に活動できる力、他者と効果的なコミュニケーションがとれる力、責任を自覚して行動できる力、自ら問題を見つけ、解決する力、幅広い視野で、多様な強みを生かし、自分らしく生きる力の育成に重点目標とし努力した。	評価1-0 評価2-1 評価3-3	・本年度より校名を変更されどのような専門職を育成したいのかが明確になった。将来構想とつながり、より多くの柔道整復師を育成して頂きたい。 ・運営母体(公社)大阪府柔道整復師会として柔道整復師の社会的地位向上のためどのようなことをされているのか？→それをもっと発信することにより積極的に客観的に再確認ができ自己評価の向上につながると思う。 ・高い目標を持つことは大切であり、その目標に向かってイビデンスのある行動を取ることにより高い道整復師(高い品質保証)の育成につながると思います。 ・運営母体の連携により社会保障制度や職業倫理を指導されていることは良いと思う。 ・多くの論文を出すことにより柔道整復師の世界的認知が進めば将来的に大きな目標となると思う。 ・複数の資格を得ることで本人の選択幅が広がりが良いと思う。	
2 学校運営	2-7 人事や資金での処遇に関する制度は整備されているか	人事や資金での処遇に関する制度は学校運営母体の(公社)大阪府柔道整復師会の規定により整備されている。人事考課や自己点検制度も整備されている。	財政が潤沢でないこともあり慢性的な人手不足が課題となっている。優秀な人材を余裕をもって確保できるよう、広報活動に尽力する。	評価1-0 評価2-3 評価3-1	・処遇改善と賃金制度は人材確保に直結しているため見直しは必要である。 ・組織として職員が定着してくれる福利厚生の実施や何かしらのGIVEが必要。 ・色々なツールを使って行って頂きたいと思います。 ・財政的には運営母体の規程で整備されているが、一定の学生の確保は必要であると思う。	
3 教育活動	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	基礎分野に該当する科目は、科学的思考の基盤を整えることを目的としたカリキュラムであることから、1年生時に重点的に身に付けることができるような位置づけを行い、専門基礎科目の履修をスムーズに行えるような内容の工夫をし、講師間でコミュニケーションも取りながら配置している。専門基礎分野は、人体の構造と機能と疾病の障害が大きなウエイトを占める科目のため、担当医師、担当大学教授、担当歯科医師と協議し、2年生から4年生にかけて専門基礎知識を積み上げながら教育ができるようなカリキュラムを意識して位置づけを行っている。専門分野の各科目は、臨床経験、教育経験ともに豊富な柔道整復師の先生方からのアドバイスに耳を傾けながら、患者に対して安心・安全な施術が行えるようにすることを念頭に、1年生から4年生に渡り、適切に段階的な履修が行えるよう教員同士で意見交換しながらカリキュラム配置を行っている。臨床実習教育は1年生から4年生にかけ全学年において実施し、運営母体と連携して附属接骨院、総合病院、介護施設などと連携し、カリキュラムとして適正に配置を行っている。	カリキュラムに関しては、教育課程一覧を学生、保護者、教員、講師がいつでも確認が可能なよう共有してあり、科目の内容について双方が意見交換できるような環境を作り、PDCAサイクルを活用できるような環境下でカリキュラム運営を行っている。その実践を行うため、履修科目の年間スケジュールは、学内掲示板にカレンダーにて掲示を行い、学生と担当講師が年間の動きを把握できるように努めており、講師は全学年の履修状況が一目で把握できるように講師室の掲示板には年間カレンダーで履修状況をチェックできるように公開している。さらに、カリキュラムの内容に関する疑問や科目履修の進め方に対する疑問は、教育課程を全て把握している教員が学生、保護者、教員、講師にいつでも説明できるように動いており、重複や漏れが発生しないよう調整を行っている。各科目がカリキュラムの中で適正に運営するには医師の確保が重要であるが、医師の確保が一層困難であることから、今後も適正な位置で科目運営できるよう、医師確保の努力を行っている。	評価1-0 評価2-1 評価3-3	・4年間でゆとりを持ってカリキュラムの進捗で計画的に効果的に運営されている。 ・PDCAサイクルの活用は今の若者の苦手とされる物事について仮説を立てる事に良い効果が期待できると思います。 ・一定の配慮がされていると思う。医師でなければ出来ない科目もあり、医師の確保の努力は常に必要であると思う。	
4 教育成果	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	卒業生の社会的な活躍は学校として把握している部分も多くある。把握している活躍に関しては、ホームページや学校案内で紹介することやYouTubeで活躍を紹介するなど、可能な限り把握できるよう努めている。在校生の社会的な活躍も評価できるよう、厚生労働省が発行するジョブカードを活用し、キャリアプランを作成する過程での興味・関心がある分野を探り、これまでの人生を振り返る自己理解教育で把握するようにしている。	在校生の把握は、教員との信頼関係を構築することで把握することが可能となるが、卒業生としてしまうと全員を把握することは困難である。卒業生の社会的な活躍が把握できるよう、今後も魅力ある学校作りにより、帰ってきたい学校を目指せるようにする。	評価1-0 評価2-3 評価3-1	・卒業生のフォローUPとしての交流会を定期開催するなどして卒業生の活躍を在校生に示す機会を設定してはどうか。 ・在校生については日々のコミュニケーションにより把握できていると思われるが卒業生については校友会等を通じて連携を取られるのはいかがでしょうか。 ・質の高い教育とOBの活躍を示せば本人、保護者もコストに納得するのではないかと。 ・ホームページの内容の完成度がスキルアップしていると思いました。 ・在校生については日々のコミュニケーションにより把握できていると思われるが卒業生については校友会等を通じて連携を取られるのはいかがでしょうか。	
5 学生支援	5-29 保護者と適切に連携しているか	月に一度実力試験を実施し、在校生の履修度合い、習得度を確認している。また、出席状況も月に一度は集計し、生活状況を把握している。その中で、問題があるような学生保護者には、毎月「保護者通知」を送付している。お手紙の返信がある場合もあれば、電話で状況に対する質問も複数ある。そのつど専任教員が対応し、連携を行っており、今後も継続して行っていくようにしている。	保護者とは密に連携をとり、学生が保護者に誤った報告や状況を伝えていても誤解が生じないよう努めている。それぞれの学生の生活状況に応じた保護者通知を個別作成しお届けしている。今後は、複数の教員が行えるようにすることが課題であり、目標としている。	評価1-0 評価2-2 評価3-2	・保護者との連携を密にとり学生支援に努めていると評価できる。 ・保護者にとっては大変な取り組みだと思います。 ・学生の中では単身生活をしている者もあると思われるので、保護者との連携は必要事項と思われる。	
6 教育環境	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるような整備されているか	施設・設備は、運営母体の会館内に学校があるという特性上、教育上の必要性に十分対応できるまでに整備されていないが、運営母体の運営状況に合わせて限り十分対応ができるような整備が行えるよう心がける。	施設を効率よく使える工夫を行い、教育に支障がないよう科目配置を工夫する。	評価1-0 評価2-3 評価3-1	・学生が無料で活用できる様々な設備を配置できるよう今後も工夫、見直しを希望する。 ・今後の課題だと思います。 ・運営母体の会館内にあるため運営母体としても十分配慮することが必要である。	
7 学生の募集と受け入れ	7-37 学納金は妥当なものとなっているか	(公社)大阪府柔道整復師会の先生方のサポートのおかげで妥当な学納金で運営できるようになっている。	物価の高騰、インボイス導入、人材不足が今後さらに加速すると、現在の学納金では賸りきれない場合も発生する可能性もある。	評価1-0 評価2-3 評価3-1	・可能な限り安価な学納金に設定されているが、諸経費高騰に伴い検討も必要である。 ・将来像の具体化。今後の検討が必要だと思います。社会情勢に合わせて、現在の学納金が十分であるか、今後の検討課題であると思う。	
8 財務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	(公社)大阪府柔道整復師会の先生方のサポートがどこまで続くかにかかっており、必ずしも安定しているとはいえない。	中長期的に学校の財務基盤は安定できるよう、魅力ある学校作りにより、本会会員の先生方に必要と感じて頂けるような学校にできるよう努力する。	評価1-0 評価2-4 評価3-0	・学納金も含めて健全な学校運営に必要な財政基盤の整備についての検討は必要である。 ・運営母体の会員増の対策は？ ・今後の検討が必要だと思います。 ・運営母体が学校の存在意義を会員にご理解頂けるよう努力する。	
9 法令等の遵守	9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	委員の先生方のご意見を参考にしながら、自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めている。	今後も意見を取り入れながら、改善に努めるよう努力する。	評価1-0 評価2-1 評価3-3	・評価委員会を開催して改善に努められている。 ・〇問題点 ・改善点があれば常に努力して頂きたい。	
10 社会貢献	10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	学校附属のオーグエイ接骨院が実施する「いきいき健康教室」には毎回学生のボランティアを募り、活動を奨励、支援している。さらに、スポーツ医学検定の運営ボランティア活動、(公社)大阪府柔道整復師会が関わる救護ボランティア活動などにも参加させ活動させている。	今後も学生が社会に参画できる機会を増やし、学生のボランティア活動を奨励、支援していく。	評価1-0 評価2-0 評価3-4	・ホームページに掲載されており評価できる。地域の老人センターへの出前体操教室も可能ではないですか。 ・活動内容をいつも見せて頂いています。 ・運営母体が協力している救護ボランティア活動にも参加することで柔道整復師としての社会貢献を体感できて良いと思う。	
11 国際交流	11-48 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか	グローバルに世界で活躍している卒業生は、1期生のグロバダムンツルさん、1期生の宮本 泰良さんであり、グローバル人材の育成にも取り組んで成功している。また、海外に向けた広報発信も行っており、大卒各を通じて海外にいる希望者に留学生向けのサイトも設置し本校を紹介している。また、教員も海外医学ジャーナルへ原稿論文を発表し、Judo therapistの存在、本校の存在などを認知してもらう機会を得るなどして、海外との交流に取り組んでいる。	2023年からの校名変更を機会に、新たな校名の英語版も教務内に協議、英国標記、米国標記(例:Sports(米)、Sport(英))を検討し、より分かりやすく職業を理解しやすい校名を検討し決定した。卒業証書には高度専門士の称号付与と共に英語標記の修了も標記するため、今後も海外に向けた発信も積極的に行い、国際舞台で活躍できるような人材育成やそのサポート体制を整えたい。	評価1-0 評価2-1 評価3-3	・国際交流の取り組みとして地域在住の外国人との交流も企画してはどうでしょうか。 ・日本柔道整復師会と共に海外への柔整師の派遣をし認知活動をしたい。 ・1期生のグロバダムンツルさんのHP記事を拝見して日本の伝統医療についての内容に感銘を受けました。 ・卒業生の海外での活躍実績もあり、今後も海外で活躍できるよう期待します。	